

# 東名古屋病院だより

平成21年7月発行 第39号



## 理 念

私たちは、医の倫理を守り、患者さまの気持ちを尊重し、より質の高い医療を提供します。

## 基本方針

1. 患者さまへの十分なインフォームドコンセントを基本とします。
2. 皆さまに信頼される医療を提供し、療養環境の向上に努力します。
3. 地域に密着し、心のふれあいを大切にした医療を提供します。
4. 医療水準の向上のため、常に研修に励み、医療人としての専門知識、技術の研鑽につとめます。
5. 健全な経営を維持し、安心して療養できる病院をめざします。

## 目 次

- |                          |                        |
|--------------------------|------------------------|
| 2 P : 巻頭言「新型インフルエンザについて」 | 7 P : 第3回東名セミナーを開催しました |
| 3 P : 病気とのつきあい方          | 8 P : 新任者紹介            |
| 4 P : 脳波検査について           | 9 P : 新任者紹介            |
| 5 P : 西4階病棟の紹介           | 10 P : 外来案内、外来診療担当医表   |
| 6 P : 食事とサプリメント          |                        |



発行元  
独立行政法人国立病院機構  
**東 名 古 屋 病 院**  
Higashi Nagoya National Hospital

〒465-8620  
名古屋市名東区梅森坂5-101  
TEL 052-801-1151  
FAX 052-801-1160  
ホームページアドレス  
<http://www.hosp.go.jp/~tomei/>

## 新型インフルエンザについて

副院長 田野 正夫



昨年4月に吉田院長が就任されてから始めた東名セミナー、本年4月25日に第3回目が行われました。今回のテーマは呼吸器疾患であり、新型インフルエンザについても国立病院機構東京病院の永井英明先生にお話をして頂きましたが、丁度セミナーに合わせるかのように4月25日にアメリカにて豚からのインフルエンザが発生していること、また、メキシコにて不明の感染症にて数十人が死亡しているというニュースが報道されました。その後この豚インフルエンザは北アメリカからスペイン、ドイツなどのヨーロッパでも患者が発生し、新型のインフルエンザと認定されたことは皆さんも良くご存じのことと思います。

日本ではこの新型インフルエンザが国内に流入・拡大するのを阻止しようと4月の下旬より成田、関西、福岡ならびに中部国際空港の検疫が強化され、当院からも医師と看護師が派遣され検疫業務にあたりました。しかし残念ながら国内流入は阻止できず、兵庫県、大阪府から発生が始まり、今では多くの都府県で新型インフルエンザの患者が発生しています。また、現在冬にあたるオーストラリアや南アメリカなどの南半球でもこのインフルエンザが流行しており、WHO（世界保健機関）は世界的流行を意味するフェーズ6であると宣言しています。

しかし今回の新型インフルエンザは当初発生が予想されていた強毒性で致死率の高い鳥インフルエンザA/H5N1型ではなく、弱毒性のA/H1N1型であり、また、60歳以上の高齢者は過去に同じようなウイルスに感染したことがあるのか免疫力を持っているようで、感染者は主に若年者に集中しています。また、この新型インフルエンザはタミフルやリレンザといった抗ウイルス剤が効くために今のところ日本では死亡に至るケースはでておらず、軽症ですんでいます。また、患者が発生したときに患者の周りにおり感染した可能性のある人も監視する体制

がとられているため大流行には至っていません。当院でも4月末より院内にインフルエンザ対策本部を設置し患者発生時などの対応について検討していますが、今のところ患者発生は見られていません。

梅雨になり夏に入り一旦は新型インフルエンザの患者発生も減少すると予想されますが、最近の研究でこのインフルエンザウイルス、変異を重ねより人に感染し易くなっているといわれており、今年の冬には大流行するのではと懸念されています。しかし、既に新型インフルエンザに対するワクチンを作る体制もできつつありますし、この新型インフルエンザはタミフルやリレンザといった抗ウイルス剤が効くことがわかっています。高齢者や基礎疾患を有する人が罹患すると重症化することも考えられますが、いままでのインフルエンザ同様、人混みを避けることや、手洗い、うがいなどの感染防御に努めるとともに、睡眠や栄養に注意するなど一般的な注意をすることで対処可能と考えられます。新型インフルエンザが流行したことでパニックにならず、正しい情報を入手し、落ち着いて行動することが最も肝要と考えます。



# 病気とのつきあい方

## メタボとロコモ

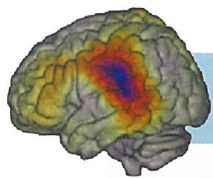


外来診療部長 佐々木康夫

誰でも病気なんかとつき合いたくはないものですが、病気というものは、いやでも向こうから勝手にやって来て居すわるもので、いらないうってもなかなか帰らないセールスマンのようなものではないでしょうか。特に慢性の病気にこの傾向が強いと思います。これに対し、急性の病気であるインフルエンザやぎっくり腰などは、発熱、咳、痛みなど強い症状が出ますが、これらはある程度病気の期間が決まっているため、かかった人も1週間くらいだと我慢ができるのだと思います。これに比べ慢性の病気の症状は日によってよかったり悪かったり、調子がいいと思って無理をするとまた調子が悪くなる、こんな事の繰り返しが続く状態です。そのため何ヶ月、病気によっては何年もこんな症状が続くので、人によってはいつ治るかわからず不安を抱えたまま治療を続けなければなりません。また初期の症状の少ない糖尿病、高血圧などは何年もたつて脳梗塞や心筋梗塞などの重大な合併症を起こして気づくことがあるので、初期の症状が少なくても積極的に病気のコントロールをする必要がある病気です。これらの病気とのつきあい方は友達付き合いにたとえると、こちらから積極的に相手のことをよく知ってつき合うつもりでないと長続きしません。

これに対して、整形外科の病気は慢性の痛みとこれに伴う日常生活の制限を伴うものが多いため患者さんにとっては、治す目標がはっきりしていて、関心を持ちやすいと思います。これらの症状を起こす病気は腰、頸などの背骨の病気や、肩、膝や股関節の変形、関節リウマチなどがあります。最近ではこれらの病気のため、バランス能力と歩行能力の低下を起こし、閉じこもりがちになり、転倒しやすくなった状態を“運動器不安定症”と言います。「“運動器”てなに？」と聞かれそうですが、たとえば、肺が呼吸器、胃や腸が消化器なので筋肉や骨は体の運動に使うために運動器と言います。また最近は何でも

横文字にしたがる傾向はどこにもあり、運動器不安定症をロコモティブシンドロームと呼んでいます。これも内科でよく使うメタボリックシンドロームの真似のようです。メタボを放っておくと脳卒中や心筋梗塞になるように、ロコモを放っておくと自分一人ではトイレにも歩いて行けなくなりますよ、ということです。では「放っておかない。」とはどんな事を言うのでしょうか。メタボでは運動療法、食事療法を行い、人によっては投薬を受けますが、ロコモの場合、多くの方がもう既にいろいろな整形外科の病気があり、治療はされている場合が多いのですが、一番大事な点はもとの病気が違っても運動療法（リハビリ）を重視していることです。リハビリというリハビリの先生にマッサージや電気をしてもらう事を思い浮かべられる方が多いと思いますが、運動療法はその名の示すように自分の力で運動をすることです。自分で散歩をしたり、スポーツが出来る人はいいのですが、病気のために家の中に閉じこもりがちの人がこの運動療法の対象になると思います。その内容は下肢の筋力強化が中心です。具体的には大腿四頭筋訓練、ダイナミックフラミンゴ療法（簡単な運動ですが、詳しくは整形外科で聞いてください）などと呼ばれる運動で、これを行うと転倒と骨折を半減するというデータもあります。また集団で行う体操として太極拳がありますが、これも転倒予防効果があると言われています。ある程度の年齢の方ならうすうす分かってみえると思いますが、膝や腰の変形は老化現象ですので、治療しても骨の変形自体がよくなるわけではありません。これらの病気の治療は、今回のテーマである“病気とのつきあい方”すなわち痛みや動作のしにくさを運動で改善し少しずつ良くしていく、たとえ良くならなくてもこれ以上悪くしない、これがあまり歓迎できない友達とのつきあい方になると思います。



## 脳波検査について

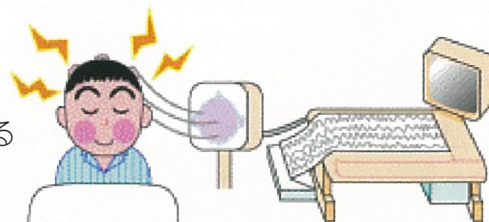


臨床検査技師 佐倉 裕二

人間の脳は、考えている時だけではなく眠っている時にも活動をしています。私たちが動作や考え事などをすると、脳内の神経細胞に微弱な電気が発生します。その脳細胞の電気的変化を肉眼的に見ることができるように波形として記録したものが脳波です。

### その主な目的

- 脳で起こっている変化（現象）を電気的な変化として捉える
- 記録時の脳の機能状態がわかる
- 病状の把握、薬剤の効果を判定する
- てんかんの診断、意識障害の評価、特異的な脳波パターンの検索をする



脳波は、脳の解剖学的変化や心理現象をみるものではなく、脳の生理的活動をみるものです。

基本的な正常波形はアルファ波で、遅い波を『徐波』、速い波を『速波』と呼びます。成人では覚醒（起きている）時の脳波はアルファ波とベータ波から成り、徐波は脳機能の低下



をきたす疾患に記録される事が多いです。小児では年令に応じてシータ波やデルタ波が基本波になっているので、年令に応じて判定する必要があります。そのため、てんかん・意識障害・脳死・睡眠段階の判定などに欠かせない検査です。

記録方法は、頭・耳朶などに電極を張り付け、ベッドに仰向けに寝てもらいます。



そして技師の指示で覚醒時に、開閉眼（目を開けたり閉じたり）・光刺激（目より30cm上方でストロボスコープがピカピカと光ります）・過呼吸（3分間息を

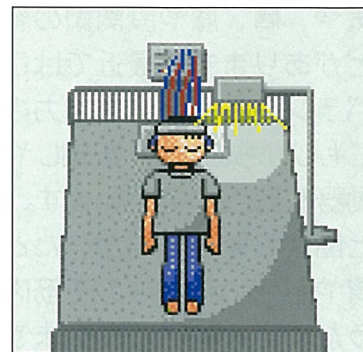
吸ったり吐いたり深呼吸をします）をした後、安静時の脳波を20分位記録します。その際、眠

くなったら眠ってしまっても構いません。

脳細胞の電気的変化は非常に小さく外からの影響を受けやすいので、できるだけきれいな脳波が記録できるように、電極の装着部分の皮膚の脂や汗を落とすためにアルコール綿で強くこすります。外来で検査をされる場合には、前日は頭髪をできるだけきれいに洗った状態で来院してください。また、ポマードや油・リキッド類も控えてください。脳波は覚醒時より睡眠中に異常が出る事が多いので、検査前夜は過眠にならないよう、少し早起きをして寝不足気味でお越しください。

また頭にたくさんの電極をつけるので、ビリビリと電流を感じるのでは？と心配される方もいますが、脳波検査は脳の電気活動を記録しているだけです。心電図と同じようなものなので電気刺激を与えるような検査ではなく、ビリビリと電流を感じることはありませんし、繰り返し検査してもまったく危険をとまいません。

“意識をなくして倒れた事がある”・“最近物忘れが多くなった”等の不安がある方は、一度検査をしてみてもいいかがですか？



## 西 4 階病棟の紹介



西 4 階病棟看護師長 川上喜美代

西 4 階病棟の紹介をさせていただきます。当病棟は今年 4 月から脳神経外科の患者様が入るようになり、整形外科と脳神経外科の混合病棟です。



整形外科の患者様の多くは大腿骨骨折や四肢の骨折、変形性股関節症・膝関節症などの手術や牽引などの保存療法、その他脊椎圧迫骨折・脊椎管狭窄症・脊椎ヘルニア、リウマチによる関節障害、リウマチのレミケード治療導入および日帰り治療・エンブレルの自己注射教育入院、大腿骨頸部骨折地域連携パスのリハビリなどの患者様が入院されています。脳神経外科の患者様の多くは脳卒中地域連携パスのリハビリ前の 2 次予防スクリーニングや軽症の脳出血・水頭症などの患者様が入院されています。その他、神経内科や呼吸器、消化器などの患者様も入院されています。

整形外科・脳神経外科のどちらの患者様も受傷すると日常生活動作が低下するため、食事・清潔・排泄など日常生活の援助が必要となります。そして、回復過程をたどるため、毎日の患者様の状況の変化に合わせて援助をしていく必要があります。また、必ず受傷前と同じ状態に戻る患者様ばかりではないので、障害が残った場合の生活などあらゆる状況にも対応できる看護が要求されています。さらに、高齢者社会におい



て当病棟に入院される患者様も高齢の方が多く、加齢に伴う身体機能低下や糖尿病・高血圧などの合併症をもった患者様がおり、あらゆる疾患の知識・技術が求められています。その中で、当病棟は患者様 1 人 1 人の身体・精神・社会的側面に目を向け、個々の背景に合わせた看護が提供できるように入院から退院まで 1 人の看護師が責任を持って看護を担当しています。そして、患者様の看護について看護師間でミーティングを適宜行うことはもちろんのこと、医師・薬剤師・理学療法士・作業療法士など患者様を取り巻く他職種とも連携し、患者様によりよいケアを提供できるよう努力しています。患者様・ご家族の方と共に医療・看護を考え、よりよい環境で退院できることを目指しています。





副薬剤科長 深津 哲

最近、薬の説明をしている時などにサプリメントに関する質問を受ける事があります。「野菜に含まれる食物繊維やビタミンの量は昔と比べて少なくなっている」と聞きますが、きちんと食事をしていても、さらにサプリメントを摂ったほうが良いですか？あるいは「いっそ野菜の代わりに手軽に摂れるサプリメントにしてはどうでしょうか。」とか、話が段々と極端になっていく場合もあります。

さて、野菜のビタミンは、過去と現在の日本食品標準成分表の比較を根拠に「少なくなっている」と評価される場合が多いのですが、実際には測定方法が変わりました。1950年に初めて公表された時は手作業による滴定法でしたが、現在は高速液体クロマトグラフィーで測定され、精度が格段に向上しています。そもそも分析方法の異なる試験結果を比較することが問題であり、それを理由にサプリメントをとる必要はありません。

もともとサプリメントとは、英語のDietary Supplementつまり「食事を補うもの」「補助食品」という意味です。アメリカでは『ハーブ、ビタミン、ミネラル、アミノ酸などの栄養成分を1種類以上含む栄養補給のための製品』と定義され、錠剤、カプセル、粉末など様々な形をした『通常の食べ物以外』とされています。日本では栄養補助食品、健康食品などとも呼ばれ、あまり明確な定義はありません。

食品には「栄養、嗜好、健康の維持」という3つの働きがあり、単に栄養を摂るだけでなく、味や香りを楽しみ、食事を楽しむことも、健全な食生活には必要です。ビタミンやミネラル、

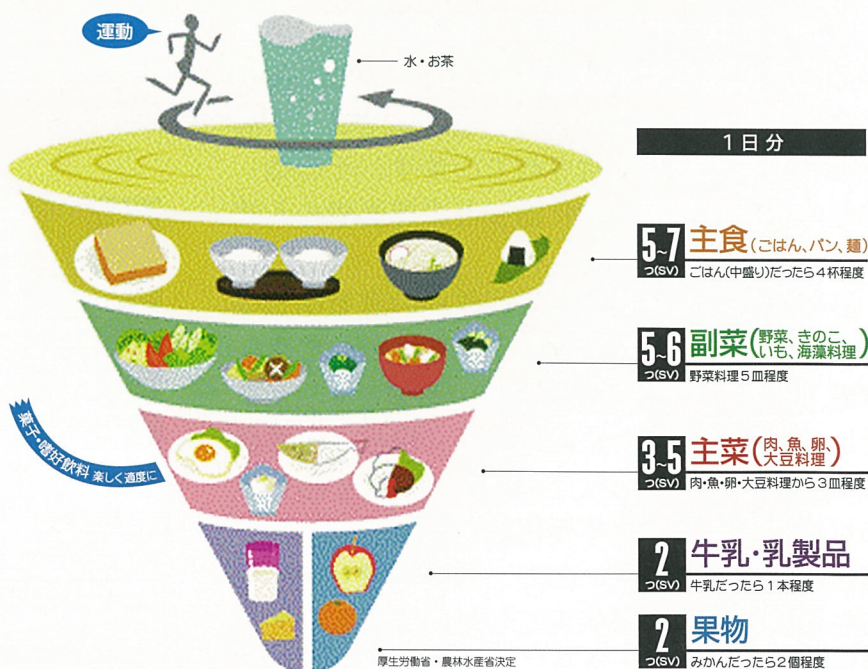
食物繊維などをバランス良く食事から摂りつつ、足りない物をサプリメントで補うという方法がよいでしょう。

2005年6月に厚生労働省と農林水産省が共同で策定した「食事バランスガイド」(下図 <http://j-balanceguide.com>) は、望ましい食生活について示した「食生活指針」を具体的な行動に結びつけるものとして、一日に「何を」「どれだけ」食べればよいのかという目安をイラストで示したもので、これを参考にすれば食事の基本を身につけることができます。

ただし、食品としての安全性に関しては、少し注意が必要です。サプリメントは、私たちが慣れ親しんだ食材以外を含む場合もあり、効果や効能だけでなく、予期しない作用を持つ可能性もあります。また、加工する際に抽出や濃縮をされることで、食材の性質が変化する場合もあり、安全性については一般の食品よりも慎重に考えたほうがよいと思います。

## 食事 バランスガイド

あなたの食事は大丈夫？



## 第3回東名セミナーを開催しました

東名古屋病院が地域に開かれた病院に、また、患者さんや地域の皆様に親しまれる病院に生まれ変わろうとしていることをアピールし、地域の方や医療関係者の方々に役立つ、様々な医療情報を継続して発信することを目的として、4月25日(土)に第3回目の「東名セミナー」を開催しました。

メインテーマ：「いま注目されている肺の病気  
～あなたの肺は大丈夫?～」

日時：平成21年4月25日(土) 13:00～16:00

場所：東名古屋病院 デイケア棟及び体育館

内容

第一部 13:00～14:00

呼吸器症状と禁煙相談会

相談件数 45件

第二部 14:00～16:00

講演会

講演1「タバコと肺の病気(COPD)」

東名古屋病院呼吸器科医長 中川 拓

講演2「肺感染症のトピックス」

東名古屋病院呼吸器科部長 小川 賢二

特別講演1「新型インフルエンザ対策」

国立病院機構東京病院呼吸器科部長 永井 英明

特別講演2「肺癌治療の最前線」

名古屋大学医学部呼吸器内科教授 長谷川 好規

東名古屋病院  
TOMEI MEDICAL SEMINAR

第3回東名セミナー  
いま注目されている肺の病気  
～あなたの肺は大丈夫?～

4月25日(土) 13:00～

第一部 13:00～14:00 (デイケア棟)  
呼吸器症状と禁煙相談会

第二部 14:00～16:00 (体育館)  
講演会

講演1 タバコと肺の病気(COPD)  
～最新治療と禁煙相談会～ 中川 拓

講演2 肺感染症のトピックス  
～最新治療と予防～ 小川 賢二

特別講演1 新型インフルエンザ対策  
国立病院機構東京病院 呼吸器科部長 永井 英明

特別講演2 肺癌治療の最前線  
名古屋大学医学部 呼吸器内科教授 長谷川 好規

予診・早期発見から治療まで

平成21年 4月25日(土) 13:00～16:00  
東名古屋病院 デイケア棟及び体育館  
〒465-8628 名古屋市中区東区南栄町5-301

参加費 無料 定員 300名(先着順) \*要予約

お申し込み方法

FAX:052-801-1160 \*要予約



相談会風景



相談会場での検査風景



講演会での院長挨拶



講演会風景

生憎の天候にもかかわらず226名の方に参加していただきました。相談会では肺の年齢がわかる検査を実際に受けていただいたり、講演会ではいろいろな肺疾患や禁煙について盛りだくさんの内容で参加の方々から病気のことや禁煙の重要性が大変よく分かったと好評のお言葉を多くいただきました。皆様から寄せられたご意見を参考に、今後も地域に密着した病院として情報発信していきますのでよろしくお願いいたします。次回の第4回東名セミナーは10月開催を予定しております。

## 新任者紹介

脳神経外科医長

竹内 裕喜



この4月より脳神経外科に赴任となりました。東名古屋病院には自分が理学療法士の学生時代に実習でお邪魔させていただいています。その頃より当院のリハビリテーション（以下、リハ）スタッフが非常に質の高い評価、訓練を実践されており、強い衝撃を受けたことを憶えています。それから20年、自分は脳神経外科医として当院に赴任することになり感慨深いものがあります。この間、世間一般にもリハへの認識が高まり、あちこちでリハスタッフ養成校が開学され、それに伴いリハ専門病院も多く開院されています。しかし、この地方でリハのパイオニア的役割を果たしてきた当院の使命は今も変わらないと思っています。また、近年の急速な科学の進歩により脳の活動がリアルタイムで可視化できるようになりました。このような最新技術も積極的に取り入れたニューロリハビリテーションを展開していきたいと思っています。もちろん従来の脳神経外科疾患にも対応させていただきますのでお気軽にご相談ください。よろしくお願い申し上げます。

神経内科医師

田村 拓也



4年間の名古屋大学大学院博士課程を修了し、本年4月から当院の神経内科に赴任させて頂きました。大学院後半の2年2ヵ月は社会人大学院生の立場で、鈴鹿病院の神経内科に勤務しておりましたので、形の上では国立病院機構内での配置換ということになります。これまで名古屋市の自宅から鈴鹿まで車で通っていましたので、通勤は大分楽になりました。同じ国立病院機構でも時間の流れの速さがかなり違うので、鈴鹿の緩い流れに馴染んでいた自分としては、最初は結構きつかったのですが、徐々に慣れてきました。同じ神経難病を扱う病院でも、当院は症例のバリエーションがはるかに豊富で、難しい症例も多いですが、充実した診療の日々を送っております。もとより微力ではありますが、新しい職務に全力を尽くす所存ですので、今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜いますようお願い申し上げます。

呼吸器科医師

林 悠太



本年4月1日より呼吸器科の医師として勤務しております。当院は肺結核、非結核性抗酸菌症、肺真菌症などの慢性呼吸器感染症に関して東海地方（日本？世界？）の中心病院であり、他の病院では診る機会の少ない疾患の患者さんが大変多く、勉強しながら診療する充実した日々を過ごしております。敷地内の緑に癒されるのも気に入っているところの一つです。遠方から当院を頼られて来られる方だけでなく、地域の方々にも信頼していただける医療提供を心掛けていきますのでよろしくお願いいたします。

消化器科医師

小林 慶子



本年1月1日付で、名古屋医療センターより異動して参りました。

当科で二人目の医師となります。内視鏡検査や治療が中心の診療で、患者様のお役に立てるよう努力していきたいと思っています。

何分少人数ですので皆様に御迷惑をお掛けすることもあると思いますが、小回りの利いたきめの細かい、信頼される医療を目指したいと存じます。

どうぞよろしくお願いいたします。

呼吸器科医師

篠田 裕美



本年4月より呼吸器科医師として勤務することになりました。当科では、肺結核をはじめ、COPDや慢性呼吸不全の患者様が多くその日常診療に当たっております。当院の特色である呼吸リハビリテーションや、呼吸管理、栄養療法などで包括的に呼吸器疾患の患者様のお悩みを解決できるよう努力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



薬剤科長  
高橋 朗



本年4月に長良医療センターより赴任いたしました。富士病院、豊橋病院、名古屋医療センターで勤務させていただき、5施設目の病院となります。名古屋市内にありながら緑豊かな環境の中で仕事ができることを大変ありがたく感じております。

薬剤師がチーム医療の担い手として活動するために、医薬品の安全性確保や質の高い薬物療法を目指し、病棟等での薬剤管理や、医師・看護師と患者・家族の間に立ち服薬指導など、医薬品の適正使用のさらなる充実を図りたいと考えています。

地域の皆様に親しまれる病院となるように、薬剤科スタッフや院内各部門と一緒に汗を流したいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

西 6 階病棟 看護師長  
佐々 恵子



今年 4 月 1 日付で国立病院機構天竜病院から転勤してきました。数年前に東名古屋病院附属看護学校に精神科看護の講義をさせていただきました。

再び、この名古屋で働ける事を感謝しています。

看護師長経験は、4 年目と浅く、年数を経過する事に責任の重さを感じています。

結核病棟では、様々な患者様の背景を受け止めながら、結核治療に取り組んでいきたいと考えています。愛知県の結核拠点病院として、位置づけされている事から、地域の保健師との連携を密に行い、地域の皆様に応えられるように努力したいと思っています。

どうぞよろしくお願い致します。

西 4 階病棟 看護師長  
川上喜美代



今年4月1日付で、鈴鹿病院より赴任いたしました。前施設は政策医療専門病院でした。そこで学んだことを活かし、新たに一般診療の中の地域連携パスの充実や脳卒中回復リハビリ病棟の開設など、当院の医療・看護の変化に柔軟に対応できるよう頑張りたいと思います。各職員と協力しながら、医療・看護の質の向上に努めたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

リハビリテーション学院  
教育主事 近藤 登



本年 4 月 1 日付で名古屋医療センターより赴任いたしました。リハビリテーション学院勤務は約10年ぶりの復帰であり昭和63年 4 月から平成12年 3 月まで教官として勤務しておりました。（さらにさかのぼりますと本学院の 1 期生であり学生時代を過ごしました。）

教育現場からは離れていたため戸惑いや不安で複雑な心境ではありますが各教員に助けてもらいながら日々を過ごしている毎日であります。

学生は確かな知識・高い技術を身につけることは当然のことではありますが「報告、連絡、相談」が何時、誰にでも確実に伝え、「目配り、気配り、心配り」の気持ちを忘れずに患者様はもちろんのことスタッフやまわりの方々に配慮ができ、信頼される豊かな人間性を身につけられるように指導していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

西 5 階病棟 看護師長  
加藤 忍



今年 4 月 1 日付で、三重中央医療センター附属三重中央看護学校より赴任いたしました。

東名古屋病院には、附属看護学校を卒業後10年間勤務しておりましたので、当病院でまた勤務できることを、大変嬉しく思っております。

現在は呼吸器内科病棟で勤務しておりますが、臨床での勤務は 6 年ぶりとなります。6 年間の教育現場での経験を活かしつつ、1 日も早く患者様に安心していただけるサービスが提供できるように努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



# 外 来 案 内

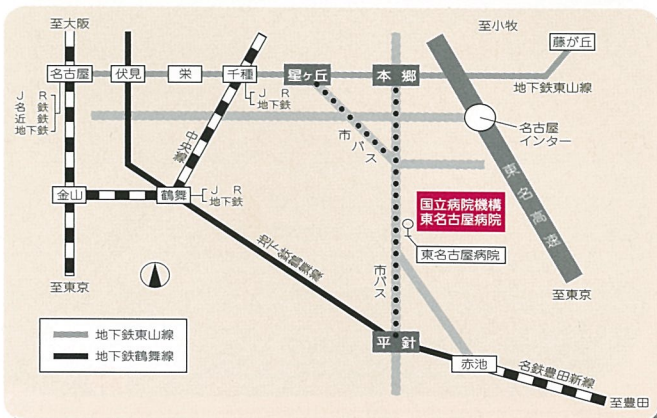
- 診療受付時間 午前8時30分～午前11時まで（緊急の場合はこの限りではありません）
- 診療開始時間 午前9時～
- 休 診 日 土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始（12月29日～1月3日）
- 初診時の特別料金 他の医療機関等からの紹介ではなく、直接当院に来院された患者さまは、初診にかかる費用として、1,050円（税込）をいただいております。ご了承下さい。  
ただし、緊急その他やむを得ない事情により他の医療機関からの紹介によらず来院された場合にあってはこの限りではありません。

## 外来診療担当医表

（平成21年7月1日現在）

| 診療科    | 診療室     | 月                      | 火                               | 水                                 | 木                                 | 金                               |
|--------|---------|------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| 呼吸器科   | ①<br>初診 | 齋藤 裕子                  | 小川 賢二<br>第1・3<br>中川 拓<br>第2・4・5 | 林 悠太                              | 篠田 裕美                             | 垂水 修                            |
|        | ①       | 垂水 修                   | 清水 信                            | 田野 正夫                             | 田野 正夫                             | 林 悠太<br>第1・3<br>篠田 裕美<br>第2・4・5 |
|        | ②       | 中川 拓                   | 山田 憲隆                           | 中川 拓<br>第1・3<br>小川 賢二<br>第2・4・5   | 小川 賢二                             | 齋藤 裕子                           |
| 循環器科   | ③       | 当番医が診察します              |                                 | 当番医が診察します                         |                                   |                                 |
| 神経内科   | ⑪       |                        |                                 | 犬飼 晃                              |                                   |                                 |
|        | ⑫       | 饗場 郁子                  | 片山 泰司                           |                                   | 田村 拓也                             | 早川 恵理                           |
|        | ⑬       | 横川 ゆき                  | 後藤 敦子                           | 後藤 敦子                             | 齋藤由扶子                             | 見城 昌邦                           |
|        | ⑭<br>初診 | 犬飼 晃                   | 齋藤由扶子                           | 田村拓也 第1・3<br>早川恵理 第2・4<br>片山泰司 第5 | 横川ゆき 第1・3<br>見城昌邦 第2・4<br>後藤敦子 第5 | 饗場 郁子                           |
| 消化器科   | ⑰       | 堀米 秀夫<br>(10:00～11:30) | 高橋 宏尚                           | 高橋 宏尚<br>小林 慶子                    | 小林 慶子                             | 高橋 宏尚<br>小林 慶子                  |
| 呼吸器外科  | ⑥       |                        | 山田 勝雄                           | 山田 勝雄                             | 加藤 俊之<br>(肛門外来)                   |                                 |
| 外科     | ⑦       | 渡邊 正範                  | 加藤 俊之                           | 和泉 孝明                             | 和泉 孝明                             | 渡邊 正範<br>(乳腺外来)                 |
| 消化器外科  | ⑦       | 渡邊 正範                  | 加藤 俊之                           | 和泉 孝明                             | 和泉 孝明                             | 渡邊 正範                           |
| 整形外科   | ⑧       | 金子真理子                  | 佐々木康夫                           | 三島 健一                             | 金子真理子                             | 佐々木康夫                           |
| リウマチ   | ⑧       |                        | 佐々木康夫                           |                                   |                                   | 佐々木康夫                           |
| 脳神経外科  | ⑮       | 水野 正明                  | 吉田 純<br>(予約のみ)                  |                                   | 竹内 裕喜                             | 竹内 裕喜                           |
| 泌尿器科   | ⑮       |                        |                                 | 青田 泰博                             |                                   |                                 |
| 精神科    | ⑱       |                        |                                 | 桑原 高史                             |                                   | 山田 堅一                           |
|        |         |                        |                                 | 酒井 崇                              |                                   |                                 |
| 総合内科   | ③       |                        | 内海 眞                            |                                   |                                   |                                 |
|        | ⑯       |                        |                                 | 濱口 元洋                             |                                   |                                 |
| 皮膚科    | ⑤       | 加藤 愛                   | 加藤 愛                            | 加藤 愛                              |                                   | 加藤 愛                            |
|        |         | 田中 伸<br>第2 14:00～16:00 |                                 |                                   |                                   |                                 |
| リハビリ外来 |         | 見城 昌邦                  | 横川 ゆき                           | 佐々木康夫                             | 早川 恵理                             | 田村 拓也<br>第1・3・5<br>林 悠太<br>第2・4 |

※予約制は再来診の場合のみです。初診の場合は通常どりの診療となります。  
※救急診療は、時間外・休日も行っていますので、時間外窓口にご連絡下さい。(052-801-1151)  
※当院では、毎週火曜日に外来人間ドック（予約制）を行っていますのでご利用下さい。



- 地下鉄東山線星ヶ丘駅下車
  - ・市バス③番のりば } 約15～20分 東名古屋病院にて下車
  - ・東名古屋病院行き
  - ・梅森荘行き
  - ・星ヶ丘よりタクシーにて約15分
- 名鉄豊田新線・地下鉄鶴舞線赤池下車
  - ・タクシーにて約8分
- 地下鉄鶴舞線平針下車
  - ・市バス①番のりば本郷行き約10分 東名古屋病院にて下車
  - ・タクシーにて約8分
- 地下鉄東山線本郷駅下車
  - ・市バス①番のりば地下鉄平針駅行き15～20分
  - 東名古屋病院にて下車
- 東名高速道路名古屋インターより約15分